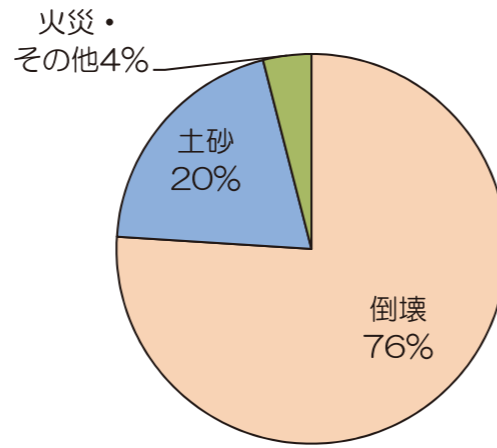


もしもの時の備え

あなたの命や財産を守るためには、**建物の耐震化が極めて重要**です。

地震による死亡・怪我の原因

熊本地震（平成28年4月発生）での死者のうちの**約8割**は、地震直後の家具、建物による圧死といわれています。



熊本地震の死亡原因
(出典：自然災害科学119、Vol.35、No.3、日本自然災害学会、2016)

倒壊しやすい建物の特徴

- 建物の壁面が傾斜しており、目視によってその傾斜がわかる。
- 窓の敷居が水平を欠いている。
- 屋根が重く、壁に筋交いが少ない。
- 建物の土台部分が蟻害*（ぎがい）により、腐食している。
- 建物の基礎に鉄筋が入っていないコンクリートが使われており、基礎の強度が不足している。
- 塗装のモルタルに長い斜めのひび割れが入っている。

※蟻害：シロアリによる建物の被害のこと。

建築基準法改正に伴い建築年によって建物の強さが異なります ～新耐震基準と旧耐震基準～

建築基準法は、建物を建築する際の法律です。安全で安心して暮らせる社会を築くために、これまで大きな地震を経験するたびに建築基準法における耐震基準は改正されてきました。特に、昭和56年（1981年）6月1日の改正は大きなもので、それ以前の基準は「旧耐震基準」、それ以降の基準は「新耐震基準」と呼ばれています。実際に、阪神・淡路大震災（平成7年1月発生）、東日本大震災（平成23年3月発生）では旧耐震基準で建てられた建物に被害が多く発生しました。

自宅の耐震性の検討

自宅について、昭和56年以前に建てられたと心当たりのある方は、専門家による耐震診断を受けることをお勧めします。

住宅の耐震診断について

- 旧耐震基準の建築物は、耐震診断を受けましょう。
- 耐震診断は家の健康診断です。
- 耐震診断を受けて、耐震改修工事に活かしましょう。



右ページに記載の、「耐震診断の考え方」を参照し、自宅の地震対策について考えてみましょう。



写真 1階部分が押しつぶされた建物
(出典：キロクマ！熊本素材写真アーカイブス)

耐震診断の考え方

■誰でもできるわが家の耐震診断

どなたでもできる簡易な診断方法です。
(一財)日本建築防災協会のホームページで見ることが出来ます。



QRコードを読み取ると、リーフレットをダウンロードできます。



「誰でもできるわが家の耐震診断」リーフレット
監修 国土交通省
編集 (一財)日本建築防災協会

○耐震性に心配がある場合
より詳しく診断したい場合

■一般診断法による耐震診断

建築士や工務店等の専門家による診断です。
図面によるチェックおよび簡単な現地調査を行います。

○さらに詳しく診断したい場合

■精密診断法による耐震診断

補強の要否の最終的な診断です。建築士等の専門家に診てもらいます。

○耐震改修が必要な場合

耐震改修工事

耐震改修が不要な場合

地震に強い安心・安全な家



室内家具の配置の工夫

地震によって怪我をした方のうち、およそ30～50%が、家具等の転倒、落下が原因となっています。地震による怪我を防ぐために、普段から家具等の配置や向きを確認しましょう。

- 寝室等の出入り口付近に、家具を置かないようにしましょう。地震により家具等が倒れてきた場合、避難路を妨げるおそれがあります。
- 寝ている場所に家具が倒れてこないように配置しましょう。家具転倒防止グッズなどを使用することも有効です。また、家具の上に重いものを置くと、落下してきた時に危険です。
- タンスや本棚にもものを入れる場合、重いものを下に、軽いものを上にいれるようにしましょう。家具が安定し、倒れにくくなります。

家具が倒れてきた場合
ドアが開かない

